

674

特255

733

陸軍中將奧平俊藏著

政治及民心ノ  
指導原理タル國體

(恢弘第九十一號二代工)

恢弘會



始



特255  
733

# 目次

第一 緒言.....(一)

第二 國體ノ意義.....(三)

第三 國體ノ內容實質.....(九)

    其一 日本民族ノ皇室ヲ中心トスル一元的發展.....(九)

    其二 日本民族ノ一元的發展ノ生命の大精神.....(三)

    其三 神聖偉大ナル民族中心ノ連續.....(一八)

    其四 國體構成ニ及ボス神聖ノ偉力.....(二〇)

    其五 國體明徴トシテ文獻ノ價值.....(三三)

    其六 國體構成ノ經緯.....(三五)

    其七 西洋思想ニ依ル我國體ノ誤解.....(三六)

    其八 既成政黨及無產黨ノ西洋の本質.....(三九)

    其九 學校ニ於ケル國體教育ノ不備缺陷.....(四一)

    其十 西洋個人主義ノ自覺.....(四二)

    其十一 結 論.....(四四)



目次

# 政治及民心ノ指導原理タル國體

陸軍中將 奧平俊藏

## 第一緒言

崇高尊嚴善美世界列國ニ冠絶シ他ニ比類ナキ我國體ガ完全且ツ徹底的ニ國民ニ了知セラルトキ、我國ノ政治、外交、教育等ハ悉ク其根本基礎ヲ國體ニ置キ、彌々國體精神ヲ發揚スルコトニ努メララルダラウ。議會及政黨ノ行動モ國民ノ公的私的ノ一切ノ動作モ皆國體精神ニ立脚シテ行ハル、ニ至ルダラウ。西洋ノ唯物主義、個人主義、マルクス主義ヤ資本家ノ横暴ガ流行スル筈モナク、忠孝ヲ以テ舊道德ナリト輕侮スル輕薄放縱思想モ一掃セラル、ニ至ルダラウ。我國體及天皇ノ神聖ヲ冒瀆スル美濃部機關説ノ打倒ハ國體明徴ノ爲メ最好ノ契機ニシテ、國體明徴ハ廣田内閣ノ重大使命デアツタニ關ハラズ、未ダ其後何等國體明徴ノ手段ガ盡サレザルハ遺憾ニ堪ヘザル所デアル。

然ラバ我國體トハ如何ナルモノカ、纏マツテ委シク説明スル公的ノ書物ハナイ、之ヲ知ルニハ古事記、日本書紀等ノ古典、歴史、歷代天皇ノ詔勅御製等ヲ慎重研究スルヲ要スル。其ノ大要ハ左記大正天皇及今上天皇御即位大禮勅語ノ一節ヲ拜讀スルコトニ依リ了知シ得ベキ筈ダ。

#### 大正天皇勅語ノ一節

朕惟フニ皇祖皇宗國ヲ肇メ基ヲ建テ、列聖統ヲ紹ギ裕ヲ垂レ、天壤無窮ノ神勅ニ依リテ萬世一系ノ帝位ヲ傳ヘ、神器ヲ奉ジテ八洲ニ臨ミ、皇化ヲ宣ベテ蒼生ヲ撫ス、爾臣民世々相繼ギ忠實公ニ奉ズ、義ハ即チ君臣ニシテ情ハ猶父子ノ如ク、以テ萬邦無比ノ國體ヲ成セリ。

#### 今上天皇勅語ノ一節

皇祖皇宗國ヲ建テ民ニ臨ムヤ、國ヲ以テ家ト爲シ民ヲ視ルコト子ノ如シ、列聖相承ケテ仁恕ノ化下ニ洽ネク、兆民相率キテ敬忠ノ俗上ニ奉ジ、上下感孚シ君臣體ヲ一ニス、是レ我國體ノ精華ニシテ當サニ天地ト並ビ存スベキ所ナリ。

是レ即チ國體大綱ノ宣示デアル。國體ハ我國一切ノ基礎ニシテ國體ナケレバ即チ我國ナキナリ。政治、道德、教育、其他ノ一切皆國體ニ率由セザルベカラズ。國民ハ國體ヲ以テ信仰信念ノ核心トナシ公的私的ノ一切ノ行動ヲ律シ、脊々服膺シテ毫モ違反セザルヲ要ス。故ニ苟クモ國民ノ指導者タリ教育

者タルモノハ自ラ進ンデ詳細ノ研究ヲ遂ゲ、其正當ナル所信ヲ國民ニ普及スルノ義務アリト信ズ。列聖ノ國體ニ關シ軫念アラセ給フ所ヲ拜察スレバ、國體ヲ具體的ニ詳述セル教科書ガ公定セラレ、之ヲ國民ニ周知セシムルコトガ焦眉ノ急務ナリト認メラル。國體明徴ハ廣田内閣以來ノ政綱ナルモ教科書公定ガ國體明徴ノ爲メ主タル方法デアラウ。

### 第二 國體ノ意義

國體ノ體ノ字ハ單ニ姿、形、カラダトイフ意味計リデナク、他ニ質、道、法、行爲、性等ノ意味ヲ持ツ。從ツテ國體トハ國家組織ノ形態的事柄ニ止マラズ、深ク其精神、内容、働等ニ亘リ國家ノ組織構成其他一切ノ特質ヲ意味スルハ勿論デアル。然ルニ國體ノ意義ニ就テハ未ダ國論一定スルニ至ラズ、法學者ハ法學ノ立場ヨリ、倫理學者ハ道德ノ立場ヨリ、神道家ハ神道ノ立場ヨリ、各說ヲ立テテ居ルガ、大體國體ノ意義ハ法學的意義ト其他一般的意義トニ二大別サレル。吾人ハ法學的概念ヲ以テ必ズシモ其全部ヲ歐米ノ直譯ナリト斷ズルモノデハナイガ、夫レハ決シテ純然タル我國固有ノモノニ非ズシテ、法學ト共ニ歐米文化輸入ノ所産デアルコトハ争ハレヌ。從ツテ其國體概念ハ吾人ノ所信ト甚ダシク距リガアル。法學的解釋デハ主權又ハ統治權所在ノ體様ヲ以テ國體ト爲ス説ト、國體トイヒ政體

トイフモ畢竟是レ國家機關ノ組織ニ基ツク國家ノ種別ヲ指スモノニシテ、區別ノ必要ナシトスル説ト  
 ノ二ツアルモ、國體ハ單ニ斯ノ如キ形態的ノモノニ非ズシテ、更ニ精神的、道德的、歴史的ノ深遠ナ  
 ル内容ヲ有スト吾人ハ信ズルノデアアル。スタートツホルムヲ國體ト譯シ、其國體ヲ以テ法學的觀念ナリ  
 トスル法學者多キガ如キモ、日本ノ所謂國體ハ西洋ニ存在セザルモノニシテ、西洋ノ所謂スタートツホ  
 ルムハ決シテ日本ノ國體デハナイ、西洋ノ憲法ガ日本ノ所謂國體ヲ其條文中ニ表現シテ居ラヌノハ西  
 洋ニ日本ノ國體ト同一否類似ノ事實スラナキ爲メデアアル。然シ乍ラ日本ニ於テハ國體ハ古來嚴然トシ  
 テ存在シ、天皇統治及國民生活ノ基本タルベキ最大ノ事項デアアルガ故ニ、此ノ國體ガ憲法中ニ規定サ  
 レテナイトハ斷ジテ考ヘ得ザルコトデアアル。國體ノ基本中樞タル天皇及國體ノ重大作用タル天皇統治  
 ヲ掲グルノガ憲法ノ主タル役目ニシテ、之ヲ缺イテハ憲法ニナラヌ。吾人ハ帝國憲法第一條乃至第四  
 條ハ基本條文ニシテ其ノ第三條迄ハ國體ノ規定、第四條モ亦國體ヨリ出デタル規定ダト確信スル。憲  
 法ノ國體條文ニ古來ノ國體ト全ク無關係ノ條文ヲ掲グルハ不可能ト言ハネバナラヌ。

帝國憲法（第一條大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス）ハ國體ノ宣示ニシテ、其統治ハ近代の  
 政治法律概念ノミヲ以テ消極的ニ解釋スルハ當ラナイ。君、神、親、師ノ四德ヲ具備シ給フノガ我國ノ  
 天皇ニ在シマシテ、之ヲ以テ國ニ臨ミ民ヲ治メ給フ一切ヲ含ム廣大ノ意義ニ解スベキデアアル。近代の

政法概念ノ狹義ノ解釋ニ依レバ第一條ト第四條ハ無意義ノ重複タルニ過ギナイ。第一條ハ廣大無邊デ  
 アル。其天皇ハ日本民族ヲ結合セシメ服從セシメ體系化セシムル所ノ純社會的機能ヲモ有シ單ナル政  
 治法律現象ノミニ止マラナイ。此ノ政治法律的ナラザルモノデモ苟クモ夫レガ大日本帝國ナル社會ノ  
 共同生活ニ關スル限り本條ニ包含サレ、又政治法律關係ノ問題ト雖モ憲法ノ規定ニ反セザル範圍ニ於  
 テ必要ニ應ジ政治法律ヲ超越シテ行ハセ給フノデアアル。本條ハ後ニ述ブルガ如ク天照皇大神ノ萬世一  
 系天壤無窮ノ神勅ヲ現代語ニ譯サレタモノト拜察スル。從ツテ其内容ハ廣大ニシテ悉ク日本其者カラ  
 生レ出デ決シテ外國的模倣ヲ内容トシナイ。天照皇大神時代ノ内容ヲ其儘今日ニ延長セルモノト解ス  
 ベキデアアル。而シテ其ノ統治ハ飽ク迄統治デアツテ決シテ主權デモ支配權デモ亦第四條ノ單ナル統治  
 權デモナイ。故ニ教育勅語ハ憲法發布ノ二十ヶ月後ノ渙發ナルニ拘ハラズ、國務大臣ノ副署ナク直接  
 國民ニ賜ハツタ形式ヲ取ラレタ、之レ即チ第一條ノ發動デアアル。誰カ之ヲ以テ憲法違反ナリト謂ヒ得  
 ルカ。又明治二十四五年日清戰爭前ノ海軍擴張案ヲ議會ニテ否決サレタルニ對シ、在廷ノ臣僚及帝國  
 議會ノ各員ニ告グナル詔書モ、閣僚ハ之ヲ受クル者ナルガ故副書ナカリシナラント思ハル。其他祭祀  
 教恤等ノ如キ者はレ第一條ノ統治ニ入ルベキモノデアアル。皇室ニ於ケル祭祀ハ形ニ於テ國務ニ非ズト  
 ナツテイルケレドモ、明治元年氷川神社行幸ノ詔ニ神祇ヲ崇メ祭祀ヲ重ズルハ皇國ノ大典ニシテ政教

ノ基本ナリトアリ、明治四年九月十四日皇靈遷座ノ詔ヲ拜スレバ、其中ニ神器ハ天祖威靈ノ憑ル所歷世聖皇ノ奉ジテ以テ天職ヲ治メ玉フ所ナリ、又新ニ神殿ヲ作り神器ト列聖皇靈トヲコ、ニ奉安シ仰テ以テ萬機ノ政ヲ視ントスノ句アリ。斯ノ天職及萬機ノ政ハ即チ統治ニシテ精神的ニ祭祀ガ第一條ヨリ出ヅルハ明カダ。要スルニ第四條ノ統治權總攬ハ純然タル政治法律的概念デアツテ第一條ノ統治ヨリ分化シタモノデアアル。

(第二條皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス)、皇位ハ國民的デアアル前ニ民族的概念デアリ、政治法律のデアアル前ニ社會的歴史的概念デアアル。從ツテ皇位ハ政治法律のナル天皇ノ地位ヨリモ本來的ニ古ク深キ民族基本社會統治者ノ地位、即チ現人神トシテ尊崇湯仰サレ來ツタモノデアアル。現人神タル民族の信仰ハ單ナル政治的國家ノ機構カラ生レ出タモノデハナイ。皇位ナル概念ハ現人神ノ信仰ト一體不可分ニシテ政治國家ノ首長タル地位ヨリモ、更ニ深ク民族基本社會ノ内奥ニ於ケル最尊最高ノ地位トシテ、民族國家ノ統合秩序ノ中心トシテ幾千年ノ歴史ヲ一貫シテ來ツタモノデ、將來モ亦然ルベキモノデアアル。萬世一系ノ天皇ナクシテ我國體ナシ。故ニ皇位繼承ナル絕對要件ノ大綱、即チ國體事實ヲ憲法自身ノ立場ニ於テ掲ゲタノデアアル。本條ハ即チ國體ノ規定デアアル。

(第三條天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラズ)、是レ天皇ノ民族的社會的本質ヲ示セルモノニシテ、即チ

國體事實デアアル。其ノ神聖ノ文字ハ多クノ憲法學者ノ説キシ如ク法律上何等意味ナシト簡單ニ片付ケラルベキモノデナイ。既ニ憲法ニ關スル三語ニ於テ皇祖皇宗ノ神靈、惟神ノ實祚、神祐、神聖ナル祖宗ト幾度カニ亘リ、天皇及皇位ノ本質ヲ我國古來ヨリノ確信ニ依ル神聖觀念ニテ宣明シ給ヒ、又伊藤公ノ憲法義解ニモ、本條ヲ古來ノ天皇神聖觀念ヲ以テ言明セル所ニ依リ熟考スレバ、假令本條ガ西洋某國ノ憲法ニ類似スル所アリトテ、夫レガ西洋ノ憲法觀念ト同一ダトハ言ヘナイ。天皇神聖觀念ハ我國ニ於テ當初或ハ神秘觀念トシテ發生シタノカモ知レナイガ、其根據ハ天皇ノ偉大明徳仁慈ト天皇統治ノ大功大利ニ存シ、民族社會ガ天皇統治ト離レテ存在シ能ハザルヲ自覺シ、神聖觀念ハ愈々絕對的ノモノトシテ發達シ、皇位ハ神聖最尊至貴ノモノタル本質ヲ有スルニ至ツタノデアアル。即チ天皇ハ神ナリトイフ信仰ハ日本民族ノ起源ヨリ今日ニ至ル事實ニシテ、現ニ即位ノ大禮ガ大嘗祭ヲ中心重點トスル神聖ナル皇位繼承ノ表現タルコトヲ深ク考ヘネバナラヌ。國民精神文化研究所井上孚賢氏曰ク、皇祖皇宗ハ皇室ノ御先祖デアリ又全日本人ノ親神様デアラセラル、ト同時ニ更ニ宇宙生命ノ根源タル最高ノ神様デアラセラル、處ニ一切ノ單ナル祖先崇拜トモ違ヒ、又單ナル超越的ナル神ノ信仰(キリスト教ノ如シ)トモ異ナル所以ノモノガ存スルノデアアル。シカモ此ノ祖先ニシテ神ニマシマス御方様が超越的ナル目ニ見ヘヌ神トシテ全宇宙ヲ照シタマフノミデハナク、更ニ目ニ見エ給フ現人

神トシテ萬世一系ニ現實界ヲモ照シタマフコト、シカモ其現人神ハ只靈ノ救済トイフガ如キ偏倚的救世主ニ止マラセ給フコトナク、同時ニ政治上ノ君主トシテ全生活ヲ統メ給フ御方様デアラセラレル處ニ、日本ノ國ガ地球上一切ノ國家トモ異ナル所以ノモノガアリ、又神道ガ他ノ一切ノ宗教ト異ナル所以ノモノガアルノデアアル。御先祖様ガ同時ニ宇宙ノ本源デアアル所ノ有リト有ラユル生命ノ源デアアリ、價值ノ淵源デアアル所ノ神様ニ在シマスコトガ、皇祖皇宗ノ御本質ニツイテ明カニシナケレバナラヌコトノ最少限度デアアル。

眞ニ同感デアアル。斯カル社會的的信念事實方歴史ヲ一貫シテ民族精神ト成ツテイルノニ、憲法學ハ法學ダカラトテ之ヲ無視セネバナラヌ理由ハナイ。西洋憲法ノ神聖不可侵ハ一ノ文飾ニシテ毫モ社會事實デナク、全ク權利權力的觀念以外ノモノデナイ。夫レヲ以テ我國ニ適用スルカラ全ク解釋ニ成ツテイナイ。教育勅語ノ前段ヲ拜讀スレバ、皇祖皇宗ノ肇國宏遠、樹德深厚、及臣民世々ノ忠孝ヲ以テ國體ノ精華ナリト宣ハル。又前掲大正、今上兩天皇ノ勅語ニ依ルモ國體ハ統治權ノ所在艾ケデ決セラルベキ問題ニ非ズシテ、更ニ深奥ナル精神信念の方面ヲモ包有スルハ明カデアアル。假令法學的觀察ナリトハイヘ、國體ガ政體ト同ジダトイフ如キハ論外デアアル。法學者ハ法學ナルモノハ歴史ヤ道德ヲ説クモノニ非ズトイウモ之ヲ無視スルハ法學デモ亦學問デモナイダラフ。

依ツテ我國體ヲ次ノ如ク約言スル。

皇國ガ萬世一系ノ神聖仁德ノ天皇ニ依リ統治指導セラレ、臣民忠誠協贊天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼シ世界全人類ノ平和福祉ヲ以テ皇國窮極ノ使命トスル此等ノ國家的社會的歷史的精神的ノ特質及根據ヲ我國體トイフ。

肇國ノ精神、皇道、惟神ノ道、日本精神等ハ何レモ各特有ノ意義ヲ有スルナランモ、吾人ハ大體ニ於テ國體精神ト同義ナリト考フ、而シテ國體精神ガ最モ廣義ノモノデアルト信ズルノデアアル。

## 第三 國體ノ内容實質

### 其一 日本民族ノ皇室ヲ中心トスル一元的發展

古典ニ依レバ日本民族ノ始祖ハイザナギ、イザナミノ二尊ニシテ、其ノ子孫ガ直系ト傍系トニ岐レ漸次繁殖シテ社會ヲナシ、遂ニ國家ヲ成シタノデアアル。民族國家ノ發展中若干ノ異種族ヲモ包容シタノハ事實デアアルガ、此等異種族ハ皇化ニ當フ年久シク、善ク日本民族ニ同化シ、全ク區別シ難キニ至リシヲ以テ、之ハ日本民族ト同一視スベキデアアル。天皇ノ神聖偉大ノ結果新附ノ朝鮮、臺灣等ノ民族

モ久シカラズシテ同一ノ狀況ニ到達スベキハ當サニ疑ヲ容レヌ所デアアル。

即チ日本民族ハ始祖ノ直系タル皇室ヲ宗家トシ、其他ハ分家トナリ、皇室ヲ中心トシテ發達セル血縁團體ニシテ、皇室ハ即チ日本民族ノ血縁中樞トシテ萬世一系ニ存在シ給フノデアアル。民族ガ其血縁中樞ニ繋ガリテ團結スルハ人類自然ノ性情ダガ、日本ニ類スル國家ガ他ニ一モ出來ナカツタノハ、其血縁中樞ガ神聖尊貴偉大ノ繼續タラザリシ爲メ、民族發展ノ途中ニ於テ滅却サレ、若クハ血縁中樞トシテ仰ガレザルニ至ツタカラデアアル。之ニ反シ日本民族ノ血縁中樞ハ始祖以來神聖尊貴偉大ナリシヲ以テ、民族結成ノ基本中心トナリ、又社會體系化ノ最モ強力ナル原動力トナリ、民族ヲ指導シテ其ノ結成發展ヲ理想的ナラシメ以テ世界無比ノ國體ヲ成シ之ヲ永久ニ傳ヘラレルノデアアル。始祖イザナギ、イザナミノ二尊ガ此世ニ現出サレタ際、天ツ神ヨリ國家修理固成ノ神勅ヲ受ケタトイフコトハ、日本民族ノ始祖ガ如何ニ神聖尊貴偉大デアツタカヲ物語ルモノデアアル。舊記ニ依レバ西洋民族ノ始祖アダム、イヴハ動物的本能シカ持ツテイナカツタコトヲ知り得ル。從ツテ日本ノ如キ國體ガ他ニ出來ナカツタノハ固ヨリ當然デアアル。支那民族ガ十分ニ發展シタル後秦ノ始皇ガ現ハレ、兵力ヲ以テ支那ヲ統一シ、親ヲ始皇ト稱シ後世數ヲ以テ計ヘ、二世三世千萬世ニ至リ之ヲ無窮ニ傳ヘヨト傲語シタガ、血縁中樞デモ民族ノ結成發展ノ基本中心デモ社會體系化ノ原動力デモナクシテ夫レガ實現シヨウト考ヘ

タノハ一ノ空想デアツタ。

日本デハ皇室ノ始祖以來御歷代ヲ通ジテ神聖尊貴偉大デアラセラレタガ故ニ、既ニ大古草昧ノ世ニ於テ修理固成ノ神勅中心分派ノ御訓其他幾多ノ神勅御訓ガアツテ、民族ヲ指導教化シテ斯ノ國體ヲ成シタノデアアル。其ノ神勅御遺訓ノ主ナルモノハ後ニ説明スベキモ、所謂中心分派ノ御訓ハ次ノ如キモノデアアル。宇宙ノ根本中心ハ絶對唯一ノ天御中主ノ大神ニシテ、其ノ他ニ八百萬ノ神アリ、根本中心ニ對スル枝葉分派トナリ、根本ト枝葉、中心ト分派、相連繫結合シテ宇宙萬有ヲ統制スル。日本ニ於テハ皇室ガ國家民族ノ根本中心ニシテ臣民ハ其分派枝葉デアアル。臣民ハ皇室ヲ根本中心ト仰ギ、其周圍ニ堅固ナル團結ヲ作り皇室ノ御指導ヲ奉戴シ皇室ヲ翼賛シ奉リテ、以テ國家社會ノ發展ヲ期シ得ル。世界ニ對シテハ日本ガ中心デアアル。茲ニ古來日本民族ノ自主的精神ハ極メテ旺盛ナルモノアリ、外來ノ文化思想宗教ハ其長ヲ採リ短ヲ棄テ、能ク同化シテ以テ國家修理固成ノ資料トシタ。

斯ノ如クシテ日本民族ハ一元的ニ結成セラレ、天皇中心ノ團結ヲ成シタノデアアル。天皇ガ始祖以來神聖尊貴偉大ノ極致ニシテ民族ノ血縁中樞、民族ノ結成發展ノ基本中心、社會體系化ノ最モ強力ナル原動力デアアルガ故ニ、萬世一系天壤無窮トナルハ當然ニシテ、又斯ノ如キ天皇ナルガ故ニ、現人神トシテ民族ノ崇拜渴仰スル所デアアルノデアアル。萬世一系ニシテ民族皆分家デアアルガ故ニ天皇ト臣民トハ



親子關係デアル、茲ニ臣民ハ同胞トシテ融和團結スル。天皇ト臣民ガ親子關係デアルガ故ニ、忠孝ハ一本トナリ家ト國トハ歸一スルノデアル。

民族ハ何レモ血縁地縁ニ依ル團結力アリト雖、幾千萬ノ大衆ヤ遠隔地ノ住民ノ團結ハ至難ニシテ薄弱トナリ易シ。然ルニ我國ニ於テハ各臣民悉ク天皇ヲ宗家及親ト仰ギ固ク天皇ニ結付ク。故ニ天皇ハ臣民ノ結合團結ノ強力ナル原動力トナリ、天皇ヲ通シテ各臣民ノ團結ガ容易且堅固ニ出來ル。若シ假リニ天皇在シマサズトセバ、御五ハ只日本人デアルト言フ丈ノ團結力シカ持タズ、其薄弱ナルコト共和國ノ國民ト毫モ擇ブ所ナキニ至ルダラウ。

以上日本民族ノ發展經緯ニ照ストキ、日本ハ皇室先ヅ存在シ、爾後子孫次第ニ繁殖シテ社會ヲ作り次デ國家ヲ成シタノデアルカラ、天皇アツテノ國家デアリ、天皇ト國家トハ不可分ニシテ、國家ノ統治權ハ本來的根本的固有的ニ天皇ノ持タセ給フ所ニシテ、天皇ハ統治權ノ主體デアラセラル、ハ論議ノ餘地ナシ。又之ヲ有ユル方面ヨリ見ルモ日本國家ハ家ト同性質デアル。何人モ家ヲ以テ法人ト考フル者ハアルマイ。從ツテ日本國家ハ法人ナラズ、天皇機關説ハ根本的ニ誤謬デアル。

天照皇大神ノ萬世一系天壤無窮ノ神勅ハ、以上我民族發展ノ經過及以下述ブル所ノ諸般ノ事實ヲ綜合シテ將來ヲ達觀洞察シ必然的確心ニ充チ滿チテ下サレ給ヒシモノニシテ、偉大ナル幾多ノ根據アリ

決シテ始皇ノ如キ漫然タルモノデナイ。帝國憲法第一條大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ストアルハ、天照皇大神ノ萬世一系天壤無窮ノ神勅ヲ現代文ニ改譯シタモノダト推察シ得ベシ。兩者ヲ比較スルニ次ニ掲グル通り符節ヲ合スル如ク意義全ク合一スル。斯ノ神勅ガ國體大綱ノ宣示ナルハ小學教科書ノ示ス所ニシテ、國民一般ノ異存ナキ所ナルニ、憲法第一條ヲ以テ國體ノ宣示ニ非ズト爲スガ如キハ沙汰ノ限りデアル。

神勅

憲法

豐葦原千五百秋瑞穗國

大日本帝國

吾子孫

萬世一系ノ天皇

可王之地

之ヲ統治ス

皇孫就治

寶祚之隆

天皇位(天皇)

天壤無窮

萬世一系

其二 日本民族一元的發展ノ生命的大精神

皇祖ニ於カセラレテハ夙ニ太古草昧ノ世ニ於テ、靈魂不滅ノ原理ヲ日本民族ニ訓ヘサセ給フタ。即

子人ノ死スル場合其靈魂ノ一部ハ宇宙ノ根本中心タル天御中主ノ大神ノ許ニ還ルモ、其一部ハ永久ニ  
斯ノ世ニ現在シ、子孫ノ國家修理固成ノ事業ヲ監督擁護スト言フニ在ル。靈魂ノ不滅ハ今日ノ自然科  
學者ノ多クガ之ヲ信ジナイ所カモ知レヌガ、今日ノ科學進歩ノ程度デハ靈魂ノ滅却ヲ主張シ得ル根據  
ガナイダラフ。

子孫ガ祖先ノ血肉靈魂ノ延長デアリ再現デアルコトハ事實ダ、併モ祖先ノ靈魂ガ永久ニ斯ノ世ニ現  
在シテ子孫ヲ擁護ストイフ信仰ヨリ、子孫ガ此世ニ生活シ得ルコト及其受クル所ノ幸福利益ハ皆之レ  
祖先ノ賜物ナリトシ、報本反始ノ觀念ハ古來日本民族ニ於テ旺盛デアツタ。祖先ハ皆神ダ、茲ニ敬神  
崇祖トナリ、敬神崇祖ヨリ神社ト祭祀ガ現レタ。日本民族ハ皆祖先ノ延長再現ナルガ故ニ至誠儀禮ヲ  
以テ過去ノ親即チ祖先ニ奉仕スルハ祭祀ニシテ、至誠事實ヲ以テ現在ノ祖先即チ親ニ奉仕スルハ孝デ  
アル。民族ノ最古ノ親即チ第一ノ祖先ハ皇室ナルガ故ニ、祭祀ト忠孝ハ精神ニ於テ相同ジ。又天皇ハ  
民族祖神ノ直系延長ニシテ祖神ノ再現ニ在シマス。臣民ハ皇子ノ延長ナルガ故ニ天皇ト臣民ハ親子關  
係ニ在ル。茲ニ忠孝ハ一本トナリ、臣民ハ皆同胞ノ關係ニ在ル。從ツテ日本ニ於テ國ハ家ト同一ダ。  
日本ノ家ハ人間ノ最モ能ク綜合統一融合スル小團體デアアル。斯ノ家ノ原理ハ我國ノ原理ト同一ニシテ、  
國ノ原理ハヤガテ世界ノ平和ト各民族共存共榮ノ原理トナル運命ニ在ル。神武天皇ノ八紘一字詔勅ハ

斯ノ原理ニ立脚スルモノニシテ決シテ漫然空虚ノ御言葉デハナイ。

皇室祭祀令制定理由書ハ祭祀ト國體ノ關係ヲ説イテイフ。

神ヲ敬スルハ祖ヲ尙ブ所以ナリ、歷聖相承ケテ以テ皇統ヲ萬禰ニ垂レ、治教ヲ億兆ニ布ク、報本  
反始ノ義ヲ昭ニスルヨリ先ナルハナシ、蓋シ神人源ヲ一ニシテ上下祖ヲ同クス、上其孝敬ヲ盡シテ  
以テ下ヲ維繫スルハ、即チ寶祚ヲ無疆ニ享ケ國體ノ尊嚴ヲ固クスルノ道ナレバナリ。

文簡ナルモ吾人ノ言ハントスル所ヲ悉シテイル。大古民族少數ノ時代ニ於テハ繁雜ナル政務ナク、祭  
祀ハ人君自ラ正シテ民ヲ率ユル主要ノ事柄デアツタ。爾後臣民ノ數増加シ特ニ政治ヲ要スルニ至リ、  
其政治ハ祭祀ト同ジク敬虔慎重ノ態度ヲ以テセラレタノデアアル。抑モ我國ノ祭祀ナルモノハ神ヲ祀ル  
人ガ神ト合一一體ノ境地ニ達スル要求ト信仰トヲ實行ニ現ハシタル儀典デアアル。而シテ祭祀ノ精神ノ  
凝リテ社會ニ實現スルモノ是レ政治デアアル。故ニ政治ヲ「マツリゴト」ト云ウノデアアル。即チ我皇政  
ハ祭政一致ノ政治ニシテ、政治ハ力ナリトスル歐米ノモノニ反シ、臣民ヲ德化スルニ在リ、就中敬神  
崇祖報本反始忠孝ノ道ヲ濟シ醇厚ノ俗ヲ成スハ其ノ重大目的ニシテ、忠孝ハ現ユル國民道德ノ基礎デ  
アル。天孫降臨ノ時天照皇大神ガ萬世一系天壤無窮ノ神勅ト共ニ磐境神籬ノ神勅ヲ賜ハリ、祭祀ノ實  
行ヲ要求シ給ヘル神慮マコトニ深遠ナリト拜察シ奉ツル。サレバ明治天皇ハ明治元年十月十七日東京

遷都ノ後直ニ武藏國大宮ノ氷川神社ニ行幸アラセラレ、祭政一致政教基本ノ詔ヲ渙發シ給ヘルノデア  
ル。詔ニ曰ク、

神祇ヲ崇メ祭祀ヲ重ズルハ皇國ノ大典ニシテ政教ノ基本ナリ。然レドモ中世以降政道漸ク衰ヘ祀  
典擧ラズ遂ニ馴致シテ綱紀振ハズ、朕深ク之ヲ慨タム、方今更始之秋新ニ東京ヲ置キ、親臨シテ政  
ヲ視ル、將ニ先ヅ祀典ヲ興シ綱紀ヲ張り以テ祭政一致ノ道ヲ復サントス、乃チ武藏國大宮驛氷川神  
社ヲ以テ當國ノ鎮守ト爲シ、親幸シテ之ヲ祭ル云々。

是レ政治家官僚教育家等ノ最モ心スベキコトダ。

我國ノ天皇神聖觀念ノ概要ハ既ニ國體ノ意義ノ章下ニ於テ述ベタノデアアルガ、天皇ハ現人神ナリト  
ノ信仰ハ、神聖偉大ナル民族祖神ノ直系延長再現デアラセ給フコト神鏡ノ神勅ノ關係(後ニ説明ス)及  
大嘗祭御儀等幾多ノ根據ニ依ル。大嘗祭ハ皇室令及登極令ニ規定サル、即位ノ大禮ノ中心ヲナス至重  
ノ祭儀ダ。斯ノ祭典ニ於テ天皇ハ神人合一不二ノ境地ニ進マセ給ヒ、之ヲ以テ日常御生活ノ基準トシ  
給フノダト拜聞スル。即チ天皇ノ御心ハ神ノ御心ニシテ現人神デアラセ給フ。明治三年正月三日惟神  
大道宣揚ノ詔アリ、次デ其御趣旨ニツイテ諸藩ニ頒チタル御沙汰書中ニ「列祖相承亦皆大道ノ心ヲ以  
テ心ト爲シ給ハザルナシ」ノ一句アリ。神ノ心ヲ以テ心トシ給フ天皇ガ神ニ在シマサズシテ何ニテ在

ラセ給フカ、是ヲ以テ日本民族ガ開闢以來天皇ヲ現人神トシテ混仰崇拜スルハ固ヨリ其所デアアル。

以上本節ノ記事ノミヲ以テスルモ、我國ハ萬世一系天壤無窮、民族社會ノ一元の結成、天皇中心ノ  
國民團結、天皇國家不可分等ノ現實スベキ根據十分ナリト信ゼラル、上ニ、既ニ其一ノ記事及後ニ述  
ブル其三、其四ノ關係相重復連關シ、確固不動ノ國體ヲ成シタノデアアル。就中其一及本節述ブル所ノ  
血縁及血肉靈魂ノ延長トイウ先驗の原理ハ國體ノ不動確立上重大ノ基礎デアアル。既ニ述ベシ如ク家ガ  
人間ノ最モ能ク綜合統一融和ノ團體デアアルノハ血ト魂トノ關係ニシテ、就中家族中血ト魂トノ關係上  
優位ヲ占ムル家長ガ中心デアアルカラデアアル、歐洲近代ノ個人主義倫理學者「カント」ハ斯ノ重大ナル  
血縁及血ト魂ノ延長ノ問題ヲ度外視シ、人間ノ基本的ナル親子關係(血ト魂)ヲ卑近ナル感情ト同一  
視シ、之ヲ樂括的ニ感覺性ノ偶然的範圍ニ入レテイル。茲ニ人間ノ精神ト本能トヲ不自然ニ分離セシ  
ムル白人ノ二元主義ノ弊ガ現ハレテイル、靈魂ヤ血肉ノ延長ハ感覺的ナル偶然物ニ非ズシテ所謂自由  
平等ナル個人的社會關係以前ニ嚴存スル運命的、先驗的關係、即チ最モ基本的ナル生命關係デアアル、  
親ハ何故子カラ孝行セラルベキヤトイフ問題ハ決シテ西洋ノ個人的理性ニ依リテ解釋サレザル深奥ノ  
問題ニシテ、此ノ生命原理ハ白人學者ノ想像ノ及バザル所デアラウ。

子ガ親ニ孝ナルハ唯養育ニ報スル道德意識ノミニ依ルノデハナイ、報恩的道德意識ニ依ルモノトセ

バ、他人ニ養育セラレタル子ノ生ミノ親ニ對スル孝心ハ何ヲ以テ説明スルカ、又養子カ養親ニ孝ナレバ實親ヲ顧ミズトテ非難スルニ當ラナイノデアル。孝ハ報恩的道德意識ヲ含ムハ勿論ダガ、子ノ小生命ハ親ノ大生命ノ分化延長デアルトイフ生命的ナル本能情操ノ働キヲ看過シテハナラヌ。此ノ關係ハ亦我國ニ於テ天皇ト臣民トヲ繫ヒデイル、我國體ノ根本基礎ハ實ニ血デアリ魂デアアル。夫レハ單ナル道德關係ヨリモ更ニ深奥ナル人間ノ生命關係デアアル、此生命關係コソ人類ニ普遍ニシテ、如何ナル民族ト雖深ク自己ヲ考フル時ニ於テ覺リ得ル大眞理デアアル。茲ニ日本ノ國體精神ガ世界ニ光被スル偉大性ヲ有スル。某校長ガ不具ノ子ヨリ其不具ナルガ故ニ孝心ノ起リ難シトイフ質問ニ接シ、答へ兼ネタトイフガ、右ノ延長即チ親子不二ノ眞理ト因果ノ眞理ニ依リ十分ニ了解納得セシメ得ルモノト信ズル。教育者ハ宜シク國體ヲ研究スベキデアアル。

### 其三 神聖偉大ナル民族中心ノ連續

我民族ノ祖神ハ天神ヨリ修理固成ノ神勅ヲ受ケ國家ノ經營ヲ實行サレタ、修ハ國ヲ造ルコト、理ハ之ヲ整理整頓スルコト、固ハ整理整頓セル國ヲ堅固ニスルコト、成ハ堅固トナレル國ヲ更ニ完全無缺ニ成就大成スル意義ニシテ、崇高尊嚴比類ナキ我國體ノ成就ハ斯神勅ノ達成デアアル。斯ノ神勅ハ亦日本

民族始祖ノ斯世ニ現出セラレシ目的ハ完全無缺ナル國家ノ經綸ニ在リテ、他民族祖先ノ如ク單ナル生活ノ爲メニ非ラザルコトヲ示スト同時ニ、後世子孫モ亦天皇統治ヲ翼贊シ奉ツリテ修理固成ノ目的ヲ達スル任務ヲ有シ、生活ハ其方便ニ過ギザルコトヲ意味スル。斯ノ神勅ハ即チ國家ノ經綸民族指導ノ爲メ祖神ノ置カレタル最初ノ根本基礎ニシテ、皇祖皇宗ノ神聖偉大ナル着々トシテ之ヲ事實ニ實現シ給ヒタル結果ガ、天照皇大神ノ萬世一系天壤無窮ノ神勅アラシメタノデアアル。

修理固成ノ目的ヲ達スル爲メ皇祖皇宗ノ採リ給ヒシ處置方法果シテ如何、神武天皇ノ詔勅ヲ拜讀スルニ、中ニ「皇祖皇考乃チ神乃チ聖慶ヲ積ミ暉ヲ重ネテ多ク年所ヲ經タリ、」又「蒙ヲ以テ正ヲ養ヒ、」又、「皇孫正ヲ養フノ心ヲ弘メン」ノ句アリ、慶ハ道德、暉ハ直理、正ハ正義ナリト解スル、即チ神武天皇以前ノ皇祖皇宗ガ神聖ノ御身ヲ以テ、永キニ亘リ道德眞理正義ヲ以テ國家ヲ經綸サレ臣民ヲ統治指導シ給ヒシコトヲ明示スル、併モ天照皇大神ハ養蠶、機織、其他農業ヲ教へ、經濟産業ヲ獎勵指導遊バサレテイル、齋庭稻穗ノ神勅ハ其著名ナルモノデアアル。即チ皇祖皇宗ノ統治ハ御歷代ヲ通ジテ道德眞理正義ノ統治デアツタ。併カモ皇祖皇宗ノ神聖ニシテ祖神ノ直系延長民族ノ血縁中樞タルニ於テ、君臣ノ義ハ親子ノ親ミト合シ、臣民ノ至誠ニ出ヅル皇運扶翼トナリ、而シテ天皇中心ノ國民團結、家國ノ一致、天皇國家不可分トナリ、萬世一系天壤無窮ノ國體ヲ成立セシハ固ヨリ其所デアアル。

## 其四 國體構成ニ及ボス神器ノ偉力

三種ノ神器ハ萬世一系ノ皇位ト不可分ノ關係ニ在リ、其精神的偉力ハ國體ノ構成ヲ可能ナラシメシノミナラズ、國體ヲ無窮ニ傳統スルニ欠クベカラザルモノダト信ズルノデアル。世論ハ神器ヲ以テ天照皇大神ノ實物的御遺訓ナリトスルニ於テ一致スル、夫レハ吾人ガ私見ヲ述ブル迄モナク明治四年九月十四日皇靈遷座ノ詔ヲ拜スルニ、

神器ハ天祖威靈ノ馮ル所歷世聖皇ノ奉ジテ以テ天職ヲ治メ玉フ所ノ者ナリ、今ヤ朕不逮ヲ以テ復古ノ運ニ際シ忝ク、鴻緒ヲ承ク、新ニ神殿ヲ作り神器ト列聖皇靈トヲココニ奉安シ、仰テ以テ萬機ノ政ヲ視ントス。

トアルニ於テ明瞭ダ。

北畠親房ハ鏡ヲ明、玉ヲ慈善、劍ヲ剛利決斷ノ意義ニ解シ、賴山陽ハ智仁勇ナリトナシ、近頃又眞善美ト解スルモノアルモ、吾人ハ之ヲ以テ神武天皇詔勅中ノ重暉積慶養正即チ眞理道德正義ナリト解スルヲ以テ最モ適當ナリト考ヘル。神器ハ之ヲ個々ニ考ヘルト共ニ又全體トシテ考ヘルヲ要スル。神器中尙武ノ精神ヲ象徴スル劍アルハ即チ我國體精神中ニ文武兼備文武一體ノ大精神ヲ包含スルコトガ

窺ハレル、劍ハ又正義デアル、從ツテ古來皇軍ハ萬止ムヲ得ザルトキ大義名分ノ二條件ニ依テ始メテ動キ、暴ヲ懲スモ悔ヒ改メテ歸順スル者ハ之ヲ憎マズ安養其所ヲ得セシメ、軍中ハ勿論國ノ内外ニ於ケル濫虐行爲ノ少キコト世界無比ナルハ歷史上ノ事實デアル。神武天皇ガ鋒刃ノ威ヲ借ラズ天下ヲ平ゲント宣ハレシ如ク、不戰平和ハ皇道ダ、國體精神ダ、日本ヲ好戰國ト誣ユル者アルモ是レ爲メニスル所アルカ又ハ誤解ノ甚シキモノダ、御鏡ニハ次ノ神勅ガアル

吾兒コノ寶鏡ヲ視マサンコト吾ヲ視ルガ如クスベシ、トモニ床ヲ同ジクシ殿ヲ共ニシ以テ齋鏡トナスベシ。

神勅ノ御意義ハ此ノ鏡ニハ吾ノ魂ガ憑テイテ汝ノ國家修理固成ノ事業ト汝自身トヲ監督擁護スルゾ、汝ハ此鏡ニ近ク起居シ、常ニ此鏡ヲ視テ吾ヲ思ヒ、神聖ノ身トナリテ（齋ハ神佛ヲ祭ツルトキモノイミ謹慎シテ身心ヲ齊ヘルコトナリ）國家修理固成ニ精勵セヨトイフニ在リト拜察スル。夫レハ前掲皇靈遷座ノ詔ニ於テ明瞭ダ。斯ノ神勅ハ既ニ天ヨリイザナギ、イザナミニ神ニ天沼矛ヲ賜ヒ、又ニ神ヨリ天照皇大神ニ御頸珠ヲ賜ハリシ傳統的精神ヲ一層明確ニシ給ヘルモノニシテ、其根據ハ靈魂不滅ノ御思想ニ依ルモノナリト拜察シ奉ツル。吾ヲ視ル如クセヨトハ此鏡ニハ吾ノ魂ガ馮イテイルトイフコトヲ前提トスル。然ルトキ代々ノ天皇ガ御鏡ニ向ハセ給ヒ現ハレ出ヅル御姿ニシテ亦天照皇大神

ノ御姿デアラネバナラヌ。即チ神人合一不二天皇ハ天照皇大神ノ延長再現ニシテ現人神ニアラセ給フ。天皇御鏡ニ向ハレ給フトキノ御心境ヲ恭シク拜察シ奉ツルニ神聖崇高ノ極致吾人ノ口ニシ難キモノアリト信ズ。以上四節ニ亙リ四個ノ方面ヨリ國體ノ内容實質討究ノ結果ヲ綜合スレバ日本ノ國體ハ萬世一系ノ天皇ヲ中樞トシテ、忠孝一本、家國ノ歸一、君臣即父子、天皇中心ノ國民團結、天皇國家不可分、統治ノ主體ハ天皇ナリ、敬神崇祖、祭政一致、道德眞理正義ノ統治、統治翼賛ノ相關、天皇ハ神、君、親、師四德ノ權化ナルコト等々、幾多ノ崇高善美ナル特質ヲ發見スル。其綜合ガ國體デアル、此等特質ノ實質及精神ハ綱ノ糸ノ如ク彼是連關合體シ、又相互ニ他ノ各特質ノ發達及活動ヲ完全圓滿ナラシムル作用ヲナシ、離ルベカラズ斷ツベカラザル一體ヲ成シ、其間寸毫ノ遺和遲緩ナク。妙絶神工決シテ人間ノ善クスル所ニ非ズ。國體精神ノ教ユル所ハ世界既有ノ有ユル教義有ユル宗教ヲ超越シ、守リ易ク行ヒ易ク人間ノ實生活ニ即シ、併カモ精神界ニ入ルコト亦深遠ナリ。國內ヨリ一切ノ惡ヲ芟除シ、國民ノ幸福ヲ増進シ天業ヲ恢弘スルニハ、先ヅ國體ヲ明徴ニシ國民ヲシテ深ク國體精神ヲ體得修養セシムルヲ要シ、國際政治ニ於テ平和不戰共存共榮ヲ實現スルノ方途モ亦斯ノ道ヲ措テ他ニ存セザルコトヲ痛感スルノデアアル。

#### 第四 國體明徴上古文獻ノ價值

以上ニ述ベタル種々ノ神勅ハ我國體ノ體樣特質及其精神ヲ宣明スルモノニシテ、國體研究ノ中樞トナルベキモノデアアル、然シ乍ラスノ神勅ニ依ツテ國體ガ出來タノデハナク、皇祖皇宗ノ悠久ニ連續セラル御盡力ト臣民扶翼ノ結果、我國大古以來ノ社會及國家組織竝ニ民族精神ニ於テ神勅ノ御趣旨ヲ實現スベキ可能性ガ存在シ神勅ノ宣示ハ到達スベキ目標ヲ明確ニシ到達スベキ働ヲ促進指導シタモノナリト見ルノガ至當デアラウ。故ニ神勅ハ決シテ荒唐無稽ナラズシテ事實ニ即シ根據ガアル、我國體研究ハ古文獻ト併セテ歴史及歷代天皇ノ詔勅御製等ヲ綜合シテ始メテ完キヲ得ルノデアアル。

然ルニ古代ノ神話ノ如キハ荒唐無稽ニシテ信ズル價ナク、併モ夫レハ後世ノ作爲デアルトナシ、甚ダシキニ至リテハ、天照皇大神ノ存在杯ハ覺東ナイモノダトイフ者モアル様ダ。日本古代ノ神話ガ荒唐無稽デアラナラバ假令神話其モノハ今日ニ傳ハルベキモ、其精神ガ國民ニ信仰實踐セラレ、有史以前ヨリ引續キ有史以後今日迄二千六百年ノ長キニ亙リ傳ヘラル、管ガナイ、抑モ國家ナル現象ハ人間界ノ現象デアツテ民族精神ノ現ハレデアアル。民族精神ノ特質ハ即チ國家ノ特質ニシテ國體デアアル。民族精神ノ全貌ハ古代ヨリ現在ニ至リ一貫シテ全體ヲ研究スルニ非レバ之ヲ明カニシ難イノデアアル。

故ニ確實ナル歴史時代以後ノ事實ノミニ依リ國體ヲ研究セントスル態度ハ、問題ノ性質上及學問上共ニ重大ナル誤謬タルヲ免レズ、必ズヤ國體ノ源頭ニ溯及スル必要ガアル。古事記日本書紀等古代文獻ニ觸レズシテ國體ノ源頭ヲ完明スルコトハ出來ナイ。現代人ノ頭腦ヨリスレバ此等古典中ニ幾多荒唐無稽的記事ヲ見ルベキモ、之レハ確カニ古代ノ思想及信仰ノ記録ニシテ、之ヲ以テ古代人ノ精神ヲ知ルコトガ出來ル。

古事記ハ第四十三代元明天皇ノ和銅年間ニ、日本書紀ハ第四十四代元正天皇ノ養老年間ニ編纂サレ、共ニ皇紀千三百七八十年代ノ事デアアル。而シテ古事記ニ帝紀ヲ撰録シ舊辭ヲ討覈シテ編輯シタルカラ此等ノ記事ハ當時以前ヨリ傳ヘラレタ事柄デアアル、從ツテ神勅ノ如キハ當時既ニ何人モ之ヲ疑フナク肯定シタモノト見ネバナラヌ。假令夫レガ神武天皇後若干時代ニシテ、國家意識ガ國民殊ニ識者ニ明瞭ト成ツタ時代ノ作爲ニ係ルモノトスルモ、國體及皇室ノ尊嚴ト内容トニハ毫モ影響ヲ與ヘ變化ヲ來スモノデハナイ。現ニ萬世一系ノ天皇ノ尊嚴及國體ノ特長ガ神勅ノ通りデアアルコトヲ正視スルトキ、神勅ヲ綴ツタモノガ何人デアラウトモ、皇室ノ尊嚴國體ノ崇高ハ何等ノ變化ナク、愈々其光輝ヲ發シ重要性ヲ増シツ、アルノデアアル。

## 第五 國體構成ノ經緯

以上日本國體ノ結成ヲ約言スレバ、日本民族ノ基本社會ガ社會結成ノ基本中心トシテ神聖尊貴ナル血統ヲ有シ、其血統ハ民族ノ宗家即チ血縁中樞トシテ、民族ノ統制團結指導生活幸福等ノ有ラユル事柄ニ於テ、其源頭デアリ民族ノ中心崇拜ノ的デアル事實ガ最深ク廣ク重ク長キ根柢ヲ持チ、尤モ強カナル社會體系化ノ原動力トシテ民族ヲ一元的ニ結成セルガ故ニ、茲ニ比類ナキ萬世一系ノ君主國體ヲ成シタノデアアル。斯ノ如ク完備セル一元的中心ヲ基構トイフ。

然ルニ他ノ民族國家ニ在リテハ多元的准基構ヲ有シ、之ニ依リテ結成サレタモノガアル。此ノ場合其ノ國體ハ君主國トシテ構成サレテモ、幾人モノ君主候補者ヲ有シ、最初ノ王統ガ必ズシモ永久ノ王統ト定マラズシテ、革命サレ易ク、又ハ分裂シテ相抗爭シ、混沌タル状態ニ陥リ、此間強力者ガ出現シテ君主トナルモ、民族ノ基構タル資格ナク人民ヲ壓制搾取シ、其結果ハ民主國ニ化シ、佛國ノ如ク「一切ノ主權ハ人民ニ附與サレル、階級モ個人モ直接人民ニ發セザル權力ヲ行使スルヲ得ズ」トイフ人權宣言ヲ發スルニ至リ、假令君主國ノ形態ヲ存シテモ、其實民主國ニシテ君權制限、民權擴張ノ憲法ヲ有スル英國ノ如ク成ツタノデアアル。

序ニ言フガ帝國憲法第一章天皇ノ項ト第二章臣民ノ權利義務ノ項トハ、外國ニ於ケルガ如ク君民對立シ君權制限、民權擴張ノ意味ヨリ成立シタモノデナク、情愛ニ依ル上下融和ノ關係ヲ表示スル臣民ノ權利義務ハ即チ天皇ノ臣民ニ對スル、慈愛惠撫ト臣民ノ天皇ニ對スル翼贊ノ意味ヨリ成立スルノデアル。又基構及准機構共ニ之ヲ有セズシテ全ク多元的ニ結成サルレバ、民主國ヲ構成シ、其ノ國體ヲ具體的ニ決定スル最高儀表ハ人民ノ意思ニ依テ選舉サレル、其ノ大統領ナルモノハ一政黨ノ首領ニ過ギズシテ、我國ノ鈴木町田氏等ト相擇ブ所ナク、其王位モ歷史上幾多ノ事實ニ依リ其本質ヲ知ルトキ。吾等ハ皇祖皇宗ノ神靈ニ拜跪シ日本國民ノ幸福ヲ感謝シ奉ツラズニハ居ラレナイノデアアル。

之ヲ要スルニ世界ニ唯一不二ナル我尊嚴崇高ノ國體ノ成就ハ、幾多之ヲ可能ナラシムル基因アリシモ、其ノ起因ノ主體ハ始祖以來皇祖皇宗御歷代ノ神聖明德偉大デアラセ給ヒシ事デアアル。斯カル主體ヲ欠ク他民族ガ雜然タル發達ヲ遂ゲ、自然ノ推移ニ依リ區々タル團體ヲ爲スノ外ナカリシハ固ヨリ當然デアアル。

## 第六 西洋思想ニ依ル我國體ノ誤解

斯ノ如クシテ發達シタル西洋諸國民ガ始ヨリ唯物主義個人主義ナルハ免レザル所デアアル。個人主義

思想ハ政治上社會契約說トシテ表ハレテイル。即チ天賦ノ自由ヲ有スル個人ガ社會契約ヲ結ンデ創設セルモノガ、個人主義者ノ考ヘル國家デアアル、國家ハ畢竟個人ノ利益幸福ノ爲メ存在スルモノニシテ個人ガ主ニシテ國家ガ從デアアル、之レ政治上ノ自由主義ニシテ、各人ノ能力ヲ十分ニ發揮シテ其ノ運命ヲ自發的ニ開拓セシムルトイフ長所ナキニ非ザルモ、各個人ヲ內面的精神的ニ結合スル統合原理ヲ缺ク爲メ極端ナル生存競争ガ行ハレ富者ハ益々富ミ貧者ハ愈々貧トナリ、富ノ偏在ヲ來ス。斯ノ如ク大衆ノ不自由ヲ招來スル所ノ缺陷ヲ補フ爲メ平等主義ガ生レタ。平等主義ニ依リ國家ハ自由主義競争ノ結果ヨリ來ル不平等ヲ矯正シ、多數者ノ幸福ヲ保持スル爲メ、或ル程度迄個人生活ヲ強制スル、然シ乍ラ斯ノ平等主義モ權利ノ平等ニ過ギズシテ、眞ノ平等ハ期スルコトハ出來ナイノデ、結局社會主義ノ主張トナリ、具體的ニ經濟若シクハ財産ノ平等ヲ主張スル。社會主義ハ階級闘争ニ依ツテ資本家ニ對抗シ、又合法的ニ理想ヲ實現セントスルモ、必ズシモ資本家ノ存在ヲ否定スルモノデハナク、結局不徹底タルヲ免レナイ。茲ニ過激派ハ共產主義ヲ主張シ資本家階級ノ絶滅ヲ計ル、共產主義ハ即チ個人主義ガ窮極ノ點ニ達シタモノデアアル。斯ノ如キ個人主義ハ我國體精神ト相容レザルコト極メテ明瞭ダ。我國ハ明治以來歐米ノ物資文明ニ眩惑シテ歐米ノ自由主義ニカブレ、國體ノ如何ヲ顧ミズ盛シニ歐米ノ文物思想ヲ輸入シ、學校デハ殆ンド我國體ノ教育ヲ閉ニ附シ、憲法ハ國ノ根本法ニシ



テ、基礎ヲ國體ニ置キ皇祖皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述サレタモノナルニ關ハラズ、法學トハ事實ニ於テ西洋法學ナリト云フ觀念ヲ以テ我憲法ヲ西洋式ニ解釋シ、爲メニ憲法上國體問題ハ殆ンド問題ノ核心ニ觸ルコトナキ儘ニ停滯シ、異説タル天皇機關説ハ三十年以上ニ亘リ國內ヲ風靡シ滔々トシテ國體ヲ無視スルニ至ツタ。其ノ國民思想ヲ墮落セシメ政治外交及國民道德ニ惡影響ヲ及ボセシコト幾何ナルヲ知ラズ、既成政黨ノ腐敗墮落モ當サニ西洋思想流行、國體輕視ノ產物ナリト斷ゼザルヲ得ナイ。

我國憲法學史ノ五十年ハ殆ンド完全ニ近キ失敗ノ歴史デアアル。日本ノ憲法學界ヲ概別スルニ其第一ハ穗積八束、上杉愼吉等ノ諸氏ニシテ、帝國憲法ト國體トノ關係ヲ認メ、憲法ヲ國體的ニ解釋セントスルモノデアツテ、正統派又ハ歴史派ナド呼バレ、其學說ハ確カニ正シイ傾向ニアルモ、學說ノ内部ニ於テハ一方ニ西洋法學上ノ國體概念ヲ認メ他方ニ古來ヨリ我國概念ヲ認メル矛盾、我國體概念研究ノ不足、國體論ト憲法トノ聯關ニ於ケル理論ノ矛盾ガ致命的缺陷トナリ第二ノ學說ノ爲メ衰耗スルニ至ツタ、其第二ニハ美濃部達吉、中島重氏等ガ代表的ノモノニシテ、憲法上ヨリ我國體概念ヲ除去シ、憲法ヲ全ク西洋法學的ニ解釋セントスルモノニシテ、學說ノ内容ニ矛盾ナキ所ヨリ大ニ流行スルニ至ツタガ昭和十年春ノ議會ニ於テ痛烈ナル攻撃ヲ受ケ表面影ヲ没スルニ至ツタ、第三ハ帝國憲法ト日本國

體トノ因果關係ハ強イテ論セズ、所謂法學上ノ國體ナル概念ヲ假定シテ國體ヲ議スルモノニシテ、斯ノ無用ナル西洋的國體概念ノ轉用ハ曲解其者デアアル。之ニ屬スル學者ハ市村光惠、佐々木惣一、佐藤丑次郎氏等デアアル。要スルニ日本ハ天皇國ニシテ民主國ニ非ズ又西洋ノ君主國トモ全ク異ナルノニ西洋ノ政治學者ガ西洋國家ニ就テ立テタル西洋法學ヲ無批判的ニ我國ニ適用スルハ根本的錯誤ダ。

今日迄ノ我憲法學者ノ所謂法學ハ事實ニ於テ西洋法學デアアル、法トイフ抽象的觀念ハ西洋ト日本トヲ通ジ普遍的ナラネバナラス所モアラウ。又日本ト西洋トノ憲法ニ幾多ノ共通點モアラウ。然シ乍ラ法ノ内容ニ至ツテハ總テ共通的ノ性質ダトハ言ヘヌ、併モ國體問題トナレバ彼我全ク異ルノデアアルカラ、我憲法學ハ新タニ出直ヲ要スルト信ズ。

## 第七 既成政黨及無產黨ノ西洋的本質

既成政黨ハ我國上下ヲ通ジ最モ歐米思想ヲ崇拜盲信セル時代ノ產物ニシテ其ノ本質ハ全ク西洋政黨ノ直譯的輸入物ニ過ギズ、無產政黨モ亦我國體精神ト相容レザル唯物主義個人主義ノ產物タル社會主義思想ヲ本體トシテ構成サレタルモノニシテ、共產主義思想モ若干取入タルガ如キ疑ガアル。其民主無產ノ運動ニ狂奔スル處途ニ國民ノ本分ヲ忘レテ所謂人民戰線ノ亡狀ニ走リ、動モスレバ西歐殃禍ノ繼

ヲ履ミテ赤化ノ誘因タルノ惧ガアルト共ニ、自由主義打倒ヲ目指ス擬裝的ボルシェヴズム及國家社會主義者ガ無産黨内ニ巢クヒ、日本精神ノ美名ニ隠レ強權的專制ヲ敢行セントスル疑ガアル。

既成政黨ニ憲政常道論アリ、政黨互ニ政權ヲ執ルヲ以テ憲政ノ本旨ナリト稱スルモ、國體ニ反シ憲法ヲ曲解スルノ甚シキモノデアル。抑モ帝國憲法ハ天皇治道ノ廣大無邊ヲ表現セルモノニシテ、組閣降命ノ事ハ全ク天皇ノ大權ニ屬シ臣子ノ干與容喙スベキ限リデナイ。國政ノ重キヲ負荷スルニ適セバ、草野ノ處士モ擢ンデ相印ヲ託スルモ自由ナリ。政黨ニシテ賢人智者ノ叢淵タラバ其黨首ヲ闕下ニ起用スルモ亦時ノ宜シキニ依ルノミ、又既成政黨ガ議會中心主義ヲ強調シ、黨名ニ冠スルニ民政ヲ以テスルガ如キハ、歐米ノ政黨ト何等異ル處ナク、我國體ト相容レザルノ甚シキモノデアル、抑モ我國一切ノ中心ハ天皇ニシテ議會ハ天皇統治ヲ翼賛シ奉ツル天皇ノ一機關ニ過ギズ。政府ト議會トノ間ニ何等輕重ナキハ憲法ヲ一瞥スレバ何人モ之ヲ首肯シ得ル處デアル政黨ノ成立上記ノ如クナルヲ以テ以下掲グル所ノ各項ノ弊ニ陥リ易イノデアル、(政黨政治ハ憲法違反トナリ易シ)憲法ノ大精神ハ專制政治ノ弊ヲ矯メ、萬機公論ニ決シ、議會ヲシテ政府ノ爲ス所ヲ監視シ是ハ益々是ナラシメ其非ハ之ヲ矯正スルニ在リ、然ルニ政黨政治ナルモノハ政府與黨ガ議會ニ於テ多數ヲ占ムルヲ例トス、而シテ政黨ハ幹部專制ノ風アリ、故ニ事實上幹部ノ組織スル政府ノ爲ス所ハ其是非ヲ問ハズ議會ヲ通過スルノ弊

アリ、而カモ幹部專制ナルガ故ニ、議會ニ於テ各政黨員ハ幹部ノ爲ス所ニ盲從シ異議ヲ述べ得ザルガ如シ。斯クテハ政黨政治ハ萬機公論ニ決スル政治ニ非ズシテ、議會ノ任務ヲ放棄スル政治ナリ、自畫自贊ノ政治ナリ、政黨專制政治ナリ、政府ニ盲從スル政治ナリ、非ヲ遂ゲ得ル政治ナリト言ハザルヲ得ナイ。(政黨政治ハ無能政治トナリ易シ)政黨ハ事實上政權獲得ヲ以テ第一ノ使命トスルノ觀アリ、黨利黨略ヲ遂ゲ黨勢ヲ擴張スルニハ政權獲得時代ヲ最便トス。故ニ自ラ政權獲得ニ熱中シ爲メニ政權爭奪激甚ヲ極メ絶ヘズ乘ズベキ機會ヲ求メ他黨政府打倒ニカム。故ニ政黨内閣ハ通常短命ニシテ、我國ノ政黨内閣ノ命數ハ平均一ケ年四ケ月ニ過ギズ、政治ノ成績ヲ舉グルニハ斯ル短期ノ能クスル處ニ非ズシテ假スニ相當ノ時日ヲ以テスルヲ要ス、是レ政黨政治ハ通常無能ニ墮シ易キ所以ナリ。同様ニ地方ニ於テモ黨争ノ爲メ朝令暮改シ、或ハ緊急ノ施設ヲ遲滯シ或ハ事業ヲ濫行スル等行政ノ統一進展ヲ妨ゲ、又ハ國民ノ團結融和ヲ害スルノ弊少シトセズ、特ニ政黨政治時代ノ警察ハ政黨ノ干涉ニ依リ萎縮状態ニ在リシ顯著ナル事實デアアル。抑モ我國體精神上國ハ家ナリ、國民ハ同胞ナリ、相團結融和シテ天皇統治ヲ扶翼シ奉ツルベキナリ。(政黨政治ハ不正ヲ伴ヒ易シ)西洋思想ハ政治ハ力ナリトスル。我國ノ政黨モ亦之ニ倣ヒ多數ノ力ヲ以テ政權ヲ取ルニ努メ爲メニ莫大ノ資金ヲ要シ、閥ニ有利ニ國民一般ニ不利ナル政治ガ行ヘレ、土木建築ニ官有財産ノ拂下ゲニ私有財産ノ買上ニ幾多ノ不正ガ行

ハレ易イ、昭和四年以後政黨員ノ大臣タリシ者ニテ法ノ制裁ヲ受ケ又ハ受ケントシタル者五人ニ達ス  
 天皇ハ神ナリ、天皇補弼ノ大臣ハ亦神ニ近キ人格者ナラザルベカラズ、地方ニ幾多ノ疑獄ガ連續的ニ  
 頻發スルガ多クハ政黨員ガ關係シテイル。殊ニ選舉ノ肅正ガ如何ニ絶叫サレテモ、違反者ハ毎回莫大  
 ノ數ニ達シ肅正絶望ノ状態ニ在ル、此等ハ皆其器ニ非ザル多數者ヲ立候補セシメ多數ノ當選者ヲ得テ  
 中央地方ノ政權ヲ壟斷セント欲スルノ弊デアル。我皇政ハ力ニ非ズシテ道德眞理正義ノ政治ナリ。政  
 黨ハ速カニ國體精神ヲ自覺シ大臣議員等ノ器ニ非ザル者ハ自制スルヲ要スル。以上ノ外黨利黨略ノ爲  
 メ軍民離間ノ運動ヲ敢テシ又ハ誤マレル國民ノ歡心ヲ買ハンガ爲メ國家及地方ヲ不利ナラシムルノ弊  
 等舉ゲテ數フベカラズ。是レ天下周知ノ事實ニシテ政黨員ト雖心アル人々ノ自覺セル所デアル。  
 政黨ガ斯ノ如キモノデアリトスレバ、國體及帝國憲法ノ精神ニ違反スルモノデアル。宜シク現在ノ  
 如キ政黨ハ解散シテ以テ國體及憲法ノ精神ニ合スル如ク出直シヲ要スル。

### 第八 學校ニ於ケル國體教育ノ不備缺陷

我國ハ國體アツテノ國家デアリ、國民モ亦國體アツテノ國民デアル、國民タルノ資格ハ國體ニ關シ  
 堅確ナル信念ト必要ノ智識ヲ有スルコトダ。智識階級ニ於テ殊ニ然リトスル、然ラザレバ唯形態ダケ

ノ日本人トナル、然ルニ我學校ニ於ケル國體教育ノ狀況ヲ見ルニ、小學校ニ於テハ教科書ニ天照皇大  
 神ノ天壤無窮ノ神勅ヲ掲ゲ我國體ノ基礎之ニ依ツテ定マルト書テアル程度ニテ甚ダ不十分ダ。中等學  
 校ノ教科書ニ於テハ國家ハ主權、土地、人民ヨリ成ルトイフ西洋法學及國家學ノ一般國家ニ關スル定  
 說ヲ其儘我國ニ適用スルノ有害無益ヲ敢テシテイル。美濃部機關說排擊サレテ後若干字句ヲ改メタガ  
 趣旨ニ變リナイ。高等學校以上デハ國體及人格ノ教育ヲ缺キ、其憲法講義ハ三十年來美濃部機關說若  
 シクハ西洋法學其儘デアツタ。今日美濃部機關說ハ表向禁止状態ト成ツタガ、其憲法講義ノ内容ニ果  
 シテ如何ナル改良ヲ來シタラウカ、未ダ國體ヲ具體的詳細ニ説明スル公定ノ書物ナキト過去教育界思  
 想界ノ歴史ト現狀ニ徵スレバ、吾人ハ國體ト人格ノ教育ニ關スル限り安ンジテ學校教育ヲ信用スルニ  
 躊躇スル某法學博士ハ教育勅語ニ於ケル國體ノ精華ハ忠孝ノ義ダト言フガ、斯カル疎漫ナル文章ノ讀  
 ミ方ガアルダラウカ。吾人ノ見解ニ從ヘバ肇國宏遠、樹德深厚、克忠克孝、億兆一心全部ガ國體ノ精  
 華デアリ、之ガ教育ノ淵源デアル、教育者タルモノハ教育ノ淵源即チ國體ヲ十分ニ研究シテ始メテ教  
 育ノ任ヲ盡シ得ベキコトヲ教ヘサセ給ハツテイル、教育者ノ國體研究不十分ナルハ教育勅語ノ罪人ダ  
 ト言ハネバナラス。

國體明徴ハ廣田内閣ノ大使命デアツタガ、其處置ハ文部省教學刷新評議會ニ一任シ、其評議會ハ獸

々一年ヲ送ツテイル。我國ニ於テ國體教育ハ即チ人格教育ノ基本ニシテ、國體教育ノ誤謬不備ノ下ニ人格教育ノアルベキ筈ガナイ。國體研究ノ不十分ナルハ々ガ法制ノ衝ニ當ルカラ我國ノ法規ニシテ國體ニ合セザルモノガ出來ルノデアアル。學校教育ハ人格養成ト學術教育トニ偏跛アルベキモノデナイ、アル意味カラ言ヘバ寧ロ人格教育ニ力ヲ盡サネバナラス。然ルニ高等ノ學校ニ於テハ學校令第一條ノ人格教育ハ殆ンド之ヲ行ハズ、爲メニ今日ノ國民思想ノ頽廢ヲ來シタ。一般的ニテハナラバ思想的ニ健全ナルハ教育程度低キモノデ智識階級ハ寧ロ墮落シテイル、之レ教育ノ弊タ。明治十九年十月二十九日明治天皇ハ東京帝大ニ行幸遊バサレ、親シク其教育ヲ御視察ノ後、十一月五日侍講元田永孚ヲ召サセラレ大學ハ日本最高ノ學校ニシテ高等ノ人材ヲ成就スベキ所ナリ。然ルニ人材養成ノ科ナシ、斯クテハ將來大臣タルモノヲ何レニ得ベキヤト言フ御趣旨ノ御言葉ガアツテ、元田侍講ハ忠孝道德ノ主本ニ於テハ和漢ノ固有ナリ、今西洋教育ノ方法ニ依テ其課程ヲ設ケ、東洋哲學中ニ道德ノ精微ヲ窮ムルニ至ルノ學科ヲ置キ、忠孝廉恥ノ近ヨリ進ンデ經國安民ノ遠大ヲ知得スルコトヲ務メタランコト、眞ノ日本帝國ノ大學ト稱スベキナリト奉答シ、其結果翌年五月十二日德大寺侍從長ヲ大學ニ差遣サレタガ、渡邊大學總長ハ日本ニ固有ノ哲學ナシト答ヘ、遂ニ明治天皇ノ軫念アラセ給フ所ノモノ今ニ至ルモ未ダ解決サレズ、國務大臣適任者缺乏時代ヲ現出シ一般國民ノ墮落ヲ誘致セルハ恐懼スベキ極デア

ルト共ニ悲痛ノ感ニ堪ヘヌノデアアル。

明治三年正月三日大教宣布ノ詔ヲ渙發アラセラレタ。詔ニ曰ク

朕恭シク惟ルニ天神天祖極ヲ立テ統ヲ垂レ、列皇相承ケ之ヲ繼ギ之ヲ述ベ祭政一致億兆心ヲ同ジクシ、治教上ニ明カニシテ風俗下ニ美シ、而シテ中世以降時ニ汚隆アリ道ニ顯晦アリ、治教ノ治カラザルコト久シ、今ヤ天運循環百度維新、宜シク治教ヲ明カニシ以テ惟神ノ大道ヲ宣揚スベシ、因テ新ニ宣教使ヲ命ジ以テ教ヲ天下ニ布カシム、汝群臣衆庶其レ斯ノ旨ヲ體セヨ。

次デ大教ノ御趣旨ニツイテ諸藩ニ次ノ御沙汰ガ出サレタ。

大教ノ旨要ハ神明ヲ敬シ人倫ヲ明カニシ、億兆ヲシテ其ノ心ヲ正シクシ其ノ職ヲ效シ以テ朝廷ニ奉事セシムルニ在リ、教ノ以テ之ヲ導クコトナケレバ、其心ヲ正シクスルコト能ハズ、是レ教ト政ト相待テ行ハル、所以ナリ、今ヤ更始ノ時ニ當リ神武天皇鴻業ヲ創造シ給ヒ崇神天皇四方ヲ經營シ給フ御偉績ニ基カセラレ、時ニ因リテ宜シキヲ制シ大ニ變革更張遊バサレ候處、大教ノ未ダ浹洽ナラザルヨリ民心一ナラズ其方向ニ惑フ、是レ宣教ノ急務ナル所以ナリ、夫レ人ハ萬物ノ靈神明最モ惠顧シ給フ所ノモノナリ、天孫皇太神ノ勅ヲ奉ジ斯ノ土ニ君臨シ之ヲ撫育シ給ヒシヨリ、列聖相承亦皆太神ノ心ヲ以テ心ト爲シ給ハザルハナシ。然リ而シテ大政ノ變更スル所アルモノハ世ニ古今アリ

時ニ汚隆アルヲ以テノコトニテ、元ヨリ斯民ヲシテ其心ヲ正シクシ其職ヲ效シ、以テ昏迷ヲ解キ終始仰イデ依ル所ヲ知ラシメント期シ給フハ、前聖後聖其揆一ツナリ、故ニ大教ヲ宣布スルモノ誠ニ能ク斯ノ旨ヲ體認シ、人情ヲ省ミテ之ヲ調節シ、風俗ヲ察シテ之ヲ提撕シ、之ヲシテ感發奮興シ、神賦ノ智識ヲ開キ、人倫ノ大道ヲ明カニシ神明ヲ敬シ、其惠顧ノ洪恩ニ負カズ聖朝愛撫ノ聖旨ヲ戴キ、以テ維新ノ隆治ニ歸向セシムベク候、是レ政教一致ノ御趣旨ニ候事。

惟神ノ大道及大教ト宣フハ吾人ノ解スル所ニ依レバ國體精神及其教ニ外ナラズ、「教ノ以テ之ヲ導クコトナケレバ其心ヲ正シクスル能ハズ、是レ教ト政ト相待テ行ハル、所以ナリ、」又「大教ノ未ダ浹洽ナラザルヨリ民心一ナラズ其方向ニ惑フ、是レ宜教ノ急務ナル所以ナリ、」トハ今日ノ時弊ニ適中シテイル、明治天皇ノ聖恩ハ今日ニ至リ未ダ少シモ解決セラレテイナイ。行政府、議會及ビ教育ノ任ニ在ル者何人カ明治天皇ノ聖恩ヲ心トシテイル者ガアルカ、マコトニ痛嘆ニ堪ヘナイ。之ニ關シ吾人ハ學校ニ於テ左ノ如ク國體教育ヲ十分ナラシムルコトヲ主張スル。

- 一、各學校ニ國體科ヲ置キ、必修科目トシ不合格者ハ卒業セシメズ
- 二、國體科ハ學科ト訓練トヨリ成ル
- 學科ハ國體ノ教育ヲ主トシ、帝國憲法及人格向上ニ必要ナル倫理修身ノ學ヲ含ミ、訓練ハ軍事教

練ヲ含ミ、其他日本國民トシテノ人格養成ニ必要ナル日常生活一切ノ事項ニ亘リ鍛鍊ヲ加フ。  
三、綜合大學ニ國體科ヲ置ク

## 第九 西洋個人主義ノ自覺

西洋思想ハ個人ニ於テノミ窮極ノ價值ヲ認メ、夫レ以上ニ深キ意義アル民族、國家、宗教等ノ本質的ナル精神價值ヲ否定セントスル、既ニ自由主義ノ政治機構ニ於テ政治ハ全ク宗教ト分離サレ、所謂理性ヲ以テ唯一ノ頼トシ皮相ナル合理主義ヲ生活ノ準繩トスルニ至ツタ。而シテ生死ヤ民族的情操等ノ深キ形而上ノ精神的問題ヲ非合理性ノモノトシテ之ヲ回避シ、合理的ナル近代生活ニ無關係ナルガ如ク取扱ハントスル、此ノ傾向ハ唯物史觀ヲ奉ズル共產主義ニ於テ最モ顯著ナルモノアリ、社會ノ基礎構造ハ經濟的ナル生産關係ノミナリト爲シ、宗教ヲ排斥シ傳統的道德ヲ否定スルニ至ツタ。個人主義者ノ考ヘル國家ハ個人ノ利益ヲ達スル唯物機構ニ過ギナイガ、國家ハ斯カル唯物的皮相的ノモノニ非ズシテ其本質ハ更ニ深イ根柢ヲ有スル、國家ハ長キ歴史ト傳統ノ產物デアリ、吾等ノ祖先ガ創造セル文化及精神ノ顯現デアル。國家ハ過去ノ表レトシテノ現在デアリ未來ヲ有スル、故ニ其内ニ生活スル個人ハ當然傳統的精神制約ヲ受ケネバナラス。個人主義ノ行詰リニ依ツテ最モ深刻ニ惱ンダ所ノ獨伊

ハ個人主義ヲ放棄シテ歴史ト傳統ヲ高調スルニ至ツタ。ロシヤヲ主謀者トスル人民戰線ト獨伊ヲ中心トスル國民戰線ノ争ハ、即チ個人主義ト全體主義トノ争ニ外ナラス、然シ乍ラ西洋ニ於ケル全體主義ハ動モスレバ個人主義ノ弊害ノ矯正、即チ個人主義者ヲ内面的ニ自覺セシメ自發的ニ國家若シクハ民族ニ歸一奉仕スル精神的地盤ヲ作ランガ爲メ、個人ノ正當ナル自由ヲモ侵害スルヤウナ權力主義ニ陥リ易キ虞ガアル、又過去ノ惡因緣ヲ克服シテ國民總體ノ精神的動員ニ成功スルハ諸般ノ事情上決シテ容易デハナイダラウ。何トナレバ歐洲文明ノ病源ハ我國ノ如キ國體ヲ有セズ且ツ祭政不一致デアルカラデアアル。

歐洲人ノ有スル基督教ハ猶太ヨリ外來セル宗教ニシテ、ローマ末期以來極端ナル唯物享樂主義ニ對スル反動トシテ現出セル其極端ナル非現世的精神主義ハ、我國體精神ニ基ツク中庸ノ人世觀カラ見テ著シク偏倚セルモノデアアル。日本ノ國體精神ノ中庸ナル生命原理コソ日本政治哲學ノ基本原理デアラテ、之ヲ古今ニ通ジテ譯ラズ之ヲ中外ニ施シテ悖ラザル本質ヲ有スルモノデアアル。

マルクス主義ニ依テ代表セラル、唯物主義ハ精神主義ノ基督教ヲ以テ人類生活ニ於テ重大ノ一面ヲ爲ス經濟問題ニ對シ、無理解無關心ニシテ社會進歩ニ貢獻セズト排斥シテイル、吾人モ亦基督教ガ精神主義ニ偏シ現實的ナル政治經濟問題ニ冷淡ナルノ弊ヲ認メナケレバナラス。

歐洲ノ歴史ニ於テ基督教ノ非現世的精神主義ト希臘羅馬以來ノ唯物物的政治主義トガ絶ヘズ對立反撥シテ今日ニ至レル祭政不一致ノ事實ハ全體主義ノ遂行上甚ダ不利益ダ。之ガ爲メ今日全體主義ノ國ハ個人主義唯物主義ニ對スル反動トシテ宗教的ナル精神主義ヲ高唱シテイルガ、從來ノ二元主義ヲ克服シ新シキ全體主義政治理論ト調和スル所ノ精神主義ノ確立ハ蓋シ容易ノ業デハナイ。是レ我國ノ如キ祭政一致ノ原理ヲ缺ク彼等ノ爲メ同情ニ堪エヌ所デアアル、我國體精神ハ唯物主義ニ非ズ又全體主義ニモ非ズ非現世的宗教ノ如キモノデモナク、我國政治經濟教化ノ根本的指導原理ヲ成スモノデアリ、各種宗教ヲ超越シ、偉大ナル包容性ト八紘ニ光被スル偉力ヲ有スル。故ニ國內ニ於テ各種宗教ニ安住スル人々モ夫レハ單ナル人間トシテデアツテ、日本國民トシテハ萬世一系ノ天皇ト皇國ノ榮耀ニノミ窮極ノ安心立命ヲ得テイル、彼ノ戰場ニ於ケル勇士ガ天皇陛下萬歲ヲ三唱シテ瞑目スルハ斯ノ適例デアル。此等ノ一般的事實ニ鑑ミ深ク國體精神ノ偉大性ヲ認識セバ、政治經濟教育等ノ國體精神化即チ皇道化ハ容易ノ問題デアラネバナラス。今日國內ノ混沌タル情態ハ當局者ノ國體ニ關スル認識ト誠意ト努力トノ缺乏ニ依ルト考フル外ハナイ。

## 第十 結 論

四〇

金子子爵が日露戰爭中、米國ニ駐在中同國ノ有名ナル上流社會多數ノ集マレル晩餐會ニ於テ、日本軍連戰連勝ニ關シ如何ナル軍隊教育ヲシテイルカト問ハレ、軍隊ニ勅諭トイフモノガアリソレガ軍隊教育ノ基本ト成ツテイルト答ヘタ。所ガ之ハ米國ノ軍隊ニモ極メテ必要ナコトデアルトイフテ、到ル所ノ軍隊ニ日本ノ軍人勅諭ガ流行シ、又之ハ軍人ノミデハナイ一般國民ニモ必要ナリトテ、多クノ家庭ニモテハヤサレタトイフ話ガアル、更ニ同様ノ集會ニ於テ、銃後ノ國民ガ舉國一致シテ軍人ヲ推進シ涙グマシキ行動ヲ以テ戰爭ノ爲メ努メテイルノハ、如何ナル國民教育ニ依ツテ然ルカトイフ質問ニ對シ、教育勅語ノ事ヲ説明シタ所ガ、之ハ日本ノ國體ヲ本トシテ支那歐羅巴アメリカ神道佛道耶蘇教徒ノ何レニモ適合スル、アメリカノ家庭ニ於テバイブルヲ子供ニ讀聞カセタ後教育勅語ヲ讀マセ、之ニ依ツテ身ヲ處セヨトイフテ少シモ差支ガナイトテ非常ニ敬服シ、午前一時ニナルマデ熱心ニ質問ヲ續ケタ。新聞ハ金子子爵ノ晩餐會變ジテ朝餐會ニナルト盛ニ書立テタトイフ話ガアル。其後倫敦ノ大學デハ菊池大麓博士ヲ聘シテ教育勅語ノ講義ヲ聞キ、明治天皇崩御ニ際シ英國ノ「レビユー・オヴ・レビユー」トイフ雜誌ハ明治天皇ノ教育勅語ハ世界各國民ノ模範タルベキモノデアルト書キ、亞米利加ノ

「ノース、アメリカン、レヴュー」トイフ雜誌ハ教育勅語ハ世界ニ於ケル千載不磨ノ大典ナリト賞揚シテイル、軍人勅諭モ教育勅語モ共ニ國體精神ヲ以テ基礎中樞トセラレテ居ルコトハ申ス迄モナイ。國體ヲ深く研究セザレバ勅諭勅語ハ只皮相ノ教育ノ外出來ナイ。外國人ガ盛ニ之ヲ賞揚研究スルニ反シ、今日日本ノ學校ノ狀態ハ何ダ、學者トモ言ハレルモノガ西洋ノ精粕ヲ嘗メ之ヲ以テ法理ダ學理ダトナシ尊嚴崇高世界無比ノ我國體ヲ掩蔽輕視シテ怪マザルハ學界教育界ノ奇怪事ニシテ、自主的精神ノ缺乏之ヨリ甚シキハナイ。切ニ政府當局文部省及學校ノ猛省ヲ望ムノデアアル。

苟クモ我國體ニ留意セバ、我國ニ於テハ國家ヲ自己ノ手段トスル個人主義ヨリ出發スル各主義ノ存在モ亦壓迫的ニ國民ヲ強制スル權力主義ノ獨裁專制モ共ニ許サルベキデナイ。然ルニ國民ハ國體ヲ忘レテ西洋思想ニ感染スルコト七十年、唯物主義個人主義ヨリ來レル自由主義社會主義ノ流行ヲ來シ、甚シキハ共產主義ニ侵サル、者亦少シトセズ、此間政黨モ亦歐米ノ政黨化シ國體ノ光リハ爲メニ遮蔽サレ國內ノ狀況混沌ヲ極メテイル。世界各國モ亦西洋思想ノ弊ニ惱ムコト甚シク、人民戰線ト國民戰線トノ對立ハ激化シ、加フルニ他國ノ困難ハ何處迄モ無關心ニシテ、己レ獨リ榮福ヲ志ニセントスル利己的國際關係ハ常ニ大戰ノ危機ヲ包藏シ、世界人類ハ天與ノ幸福ヲ全フスルコトハ至難ト認メラル。世界ニ於ケル資源ノ公平ナル分配居住營業ノ自由ガ實現スルヨリ外ニ世界ノ平和ハナイノデア

369  
659

ル。國內ノ混沌タル状態ヲ是正シ國民全般ノ幸福ヲ増進シ、以テ天業ヲ恢弘スルノ道ハ國體ヲ明徴ニシ全國民ヲシテ國體精神ニ徹底セシムルヨリ外ニナイ。又世界ニ戰爭ヲ防止シ各國共存共榮ノ實ヲ舉グル爲メノ指導原理ハ各國ニ存在セザル所ニシテ、其唯一不二ノ途ハ之ヲ古今ニ通ジテ謬ラズ之ヲ中外ニ施シテ悖ラザル我國體精神即チ皇道アルノミデアアル。日本ハ宜シク之ヲ以テ國際政治ニ強調シ列國ヲ指導スベキデアアル。

四二

昭和十二年四月廿二日 印刷  
昭和十二年四月廿八日 發行

編輯兼 發行所 東京市澁谷區幡ヶ谷中町一四一八  
編輯兼 發行所 瀨 部 和 三 郎

印刷所 東京市麴町區九段一丁目五番地  
印刷所 横 山 才 四 郎

印刷所 東京市麴町區九段一丁目五番地  
印刷所 財團法人軍人會館出版部

發行所 東京市麴町區九段坂上偕行社内  
發行所 恢 弘 會  
振替口座東京六八三六二番  
電話 九段 三六四番



終

